

## 6月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 平成25年6月19日(水) 午前9時30分から正午
- 2 場 所 宗像市役所本館3階・301会議室
- 3 出席委員 委員長 井上裕之  
委員 中岡政剛  
委員 川上美子  
委員 平田良枝  
教育長 久芳昭文
- 4 その他の出席者 教育部長高橋勇次、市民協働・環境部長福崎常喜、子ども部長柴田祐治、教育部理事後藤正弘、教育政策課長岡田光晴、教育政策課指導主事羽田野崇、教育政策課指導主事西島潔、学校管理課長占部晃、子ども育成課長中野万由美、子ども育成課社会教育主事久保謙司、子ども家庭課長中村修、図書課長長谷川慎、文化・スポーツ推進課長磯部輝美、郷土文化交流課長清水比呂之、コミュニティ・市民協働課参事村上治彦、教育政策課政策係長許斐知加、教育政策課企画主査山本幸江、教育政策課教育連携コーディネーター田中雅子  
※傍聴 1人

5 教育委員長、委員長職務代理者あいさつ

6 前回(5/22定例)議事録の承認(資料1)《承認》

7 議案

① 議案第20号 宗像市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について(資料2)

《承認》

【久芳教育長】 資料2参照。議事録なし。(▲21秒)

【教育政策課長】 資料2参照。議事録なし。(▲48秒)

【井上委員長】 何かご意見ご質問がございますか。なければ、議案第20号につきまして、承認いただけますか。

【各委員】 はい。

② 議案第21号 宗像市体育施設の指定管理について(資料3)

《承認》

【久芳教育長】 資料3参照。議事録なし。(▲15秒)

【文化・スポーツ推進課長】 本日追加で、「宗像市体育施設条例」、「『宗像市指定管理者制度運用ガイドライン』の抜粋」、「■第2期(H22~26年度)市体育施設指定管理を非公募で行う上での教育委員会の意見等及び、指定後の具体的対応」という、3つの資料を追加で出ささせていただいております。条例でございますが、昨年の12月に玄海小学校移転に伴いまして、市の運動広場が廃止になり、第2期の指定管理で運動広場が入ってございましたので、少し古いものです。現在の条例では、この市運動広場

はございません。また「■第2期(H22～26年度)」になっておりますが、「(H22～25年度)」の誤りでございますので、訂正をお願いいたします。

それでは、説明に入らせていただきたいと思います。まず、前回の第2期の指定管理におきまして、教育委員会のなかで、侃々諤々と論議をし、最終的に「非公募」という決定をいただいた経緯がございます。そのときの教育委員会の主だった意見を抜粋させていただいております。議事録では出てこない部分もございますので、その辺も含めたところでの報告を大きく4項目挙げさせていただいております。第2期の取り組みですが、この教育委員会のなかで、様々な部分からご意見をいただいたことや指定管理を受けるなかで、体育協会が大きく改善されてきていると思っております。今回の指定管理の提案でございますが、資料3を見ていただきたいと思います。今回の指定管理施設は、運動場を削除いたしまして、市民体育館、B&G海洋センター、新たに勤労者体育センターを加え、一体的な管理がますます図られていくと考えております。具体的な提案としては、非公募と考えているわけでございますが、今日お配りしました『宗像市指定管理者制度運用ガイドライン』の抜粋をご覧ください。非公募となる施設の考え方としては、1項目から10項目までの種類がありますので、資料24ページと併せて、ご覧になってください。非公募による指定の理由は、このガイドラインの④番と⑥番の2項目に該当するということです。具体的には、スポーツ人口の底辺の拡大にも積極的に取り組んでいただいておりますし、体育協会内の人材やノウハウを活かしながら、様々なスポーツ大会、講習会、教室等も開催し、施設稼働率は、体育館ほどの施設も土曜、日曜日はほぼ100%、平日も昼間も含めて90%程度で、非常に高い稼働率にありますので、このまま引き続き体育協会に非公募で、第3期もお願いしたいと考えております。その他議事録なし(▲4分20秒)

【井上委員長】 今、説明を聞きまして、当時の議論に加わったのは、私と川上委員の2人でございます。当時のことを思い出しました。臨時教育委員会を何回も開き、紆余曲折しながら、最終的には非公募を承認しました。私たちにも、体育協会が堂々と公募で通る団体になって欲しいという期待があり、非公募・公募でのメリット、デメリットをしっかりと出し、一つ一つ議論をさせていただきました。今回、第3期にあたっては、2期でどのくらい課題を解決しているかというところを注目していましたが、今、文化・スポーツ推進課長の説明のなかで、私が聞きたいと思っているところは、大体、回答を出していただいたのではないかなと思います。この4年間でどれだけ努力して、体育協会が取り組んだか、随分課題が解決されてきているのではないかなという気がいたします。それと、前回この提案された時期は9月でした。非常に遅かった。同様の議事である学童保育の問題は早く提案されたのに、どうして体育協会は、遅かったのかというような指摘や不満が当時はあったと思います。今回の第3期について、かなり早く提案をされたということを私は評価したいと思っております。当時に関わっていない教育委員さんがおりますので、いろいろと意見を聞いて、今日、議論をさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

【川上委員】 私も前回関わっておりましたので、改めて考えてみたわけですが、前回の議論も含めて、非公募であることのほうが、市民にとってのメリットが非常に大きく、また、市が育てた社会教育団体が今回、法人になられたということは高く評価したいと思っております。本日資料を追加させていただいて、前回指摘していた点が、いろいろと改善されていて、更にグレードアップをされている状態が見られますので、私としては大変嬉しい状況になっていると思います。

【平田委員】 最初、資料を見せていただいたときは、「なぜ非公募なのかな。」と疑問に思っていました。追加資料を拝見し、きちんと4年間の事業実績が検証されていて納得がいききましたし、管理と運営との両方が一箇所で行われないと、市民スポーツの推進は難しいということを感じました。

宗像市のスポーツ活動を担っているという自負に基づいて、体育協会が前向きに課題を解決している様子が今日また見られましたので、私は承認させていただきたいと思っております。

【中岡委員】 資料で、以前の会議録等を見せていただき、この指定管理、特に体育施設が委員会で十分な協議がなされているのではないかと思っております。その結果、この4年間でどのような内容であったのか、きちんと出され評価できるのではないかと考えています。指定管理、それから業務委託等について、市民の立場としては、果たしてそれが本当にサービスの低下につながらないのかが、非常に興味・関心が高いところだと思います。しっかりと評価、検証をやりながら、評価に合わせた継続であれば問題ない。今回、評価、検証がきちんとなされているのではないかなと感じております。

【井上委員長】 あの当時、体育協会が非公募で決定すれば、前向きに努力をしないのではないかというのが、一番心配な点だったのです。公募しても自信をもって通るだけのものを持っていて欲しいという期待があったと思います。そういう意味でも、文化・スポーツ推進課長の今日の説明を聞きまして、すごく体育協会は努力しているというところがみえました。今回は前回のようにプレゼンテーションをするのでしょうか。

【文化・スポーツ推進課長】 非公募の対応は、総務課が設置する選定委員会によります。

【井上委員長】 前回、私の記憶では選定委員会で、しっかりアピールし、プレゼンテーションで体育協会の良さや訴えるべきところを出して欲しいという思いがありました。ですから、アピールする場を設定していただいたほうがいいのではないかなと思います。よろしくお願いします。

【文化・スポーツ推進課長】 はい。

【久芳教育長】 過去いろいろと指定管理制度について議論されたということですが、各委員からも指摘がありましたように、これまでの課題についても、随分改善されてきていると。それから、稼働率も高いというお話もございました。この体育協会が、本市の社会体育を推進していくうえで、非常に重要な役割を担っているということを考えれば、非公募となる施設の考え方の④番、⑥番に相当すると思っておりますので、是非、お願いしたいと思っております。

【井上委員長】 今までの議論のなかで、すべての教育委員さんから承認の方向のご意見を得られたのではと思います。何か、他にお聞きしたいことはありますか。

【川上委員】 今後の展開について、お聞きしてもよろしいですか。

【文化・スポーツ推進課長】 体育協会から、もっと利用者の利便性向上を図りたいと、スポーツ公園を含めた一元化を行って、体育協会がその管理を行いたいという強い申し入れがっております。これは当然、市民の利用の利便性が高まることとなりますので、維持管理課とも協議をし、今年度中にまとめ、来年度、スポーツ公園の全部ではないのかもしれないのですが、主だったところは、一元化の方向で検討を進めているところでございます。それと併せまして、ふれあいの森に多目的広場や、森の遊歩道がございまして、多目的広場の利用団体の90%くらいが体育協会の加盟団体ですので、利用調整もあわせて中で、シルバー人材センターと組んで、公募による申請手続きをされております。非常に意欲的な取り組みが、体育協会としてはなされておまして、どちらかといいますと、それまでは私たちが積極的に投げかけていたのが、今度は行政側が、押されているような状況があり、非常に嬉しい状況であるのではないかと考えます。

【井上委員長】 それでは、議案の第21号について承認いただけますか。

【各委員】 はい。

### ③ 議案22号 宗像市弓道場の指定管理について（資料4）

《承認》

【久芳教育長】 資料4参照。議事録なし（▲15秒）

【文化・スポーツ推進課長】 吉武の八所宮の中にあります弓道場の指定管理者の選定でございます。今管理しておりますのが、吉武地区コミュニティ運営協議会で、第2期に引き続き、第3期も吉武地区コミュニティ運営協議会に非公募で運営をお願いしたいと考えております。26ページをご覧ください、非公募による指定の理由については、ガイドライン上の③地域の活性化が期待される施設であって、その地域に根ざした団体に管理運営を委ねることにより、事業効果が相当程度期待できる施設である場合ということに該当します。年間委託料は、50万円ぐらいで、吉武地区としては、コミュニティビジネスの一環であったり、施設に隣接したりしておりますので、管理運営面も対応していただけるので、非公募で、そして管理者としてもふさわしい団体であると考えているわけでございます。

【井上委員長】 この吉武の弓道場についても、前回、指定管理者、公募・非公募の議論を十分させていただきました。その結果、吉武地区コミュニティ運営協議会にお任せするのが最適だとなったと記憶しております。この弓道場についても非公募でお願いしたいという提案がされておりますが、この件について、何かご意見ご質問はございますか。

【川上委員】 使用料の徴収実績が年々上がっていつているのですけれども、それは吉武地区コミュニティ運営協議会が、何か企画運営をされているのですか。

【文化・スポーツ推進課長】 吉武コミュニティというよりも、弓道連盟が関係しているのではないかと思われます。弓道場は、ちょうど神社境内にございますので、夜が暗く、女性一人だけではなかなか夜間には行けないところです。抜本的な改善にはならないのですが、できるだけ安全性を確保するため、今年は進入路のところが非常に傷んでおりますので、八所宮の土地をお借りできるよう整いましたので、舗装もして、施設の利便性というのも改善していきたいと思っております。

【井上委員長】 この弓道場については、管理をお願いしているわけですが、市からの指導など、何か具体的にあるのですか。

【文化・スポーツ推進課長】 これは単一競技ですし、ある面では弓道をされる方が特定されます。弓道連盟がいろいろと教室を開催しながら、掘り起こしをされている状況がございまして、吉武地区コミュニティ運営協議会に弓道人口を開拓してもらうことまでは、お願いはいたしておりません。管理の部分のみです。

【井上委員長】 イベントなどを企画したりするとかといったことはやっているのですか。

【文化・スポーツ推進課長】 額を見ていただければわかりますように、50万円くらいしかありませんので、これはソフト事業の部分を含めた金額ではないということをご理解いただけたらと思います。

【井上委員長】 わかりました。

【久芳教育長】 非常に小規模の施設で、大きな大会とか、それは施設のにも無理ですね。ですから金額的には、業務委託でもいいのではないかと私は思うくらいなのですけれども。

【中岡委員】 施設の話が出ましたので、大会をするには、少し距離が短いのではないかとこの話を耳にしましたが。

【文化・スポーツ推進課長】 短的と長的、短いと長いのがありますが、短いものは満たしております。長的是できません。ただ、長的是50メートルくらいの距離が必要ですから、長的ができる施設というのは、弓道場のなかでもそうはないのではないかと思います。

【井上委員長】 長的というよりも、遠的ですね。近的は28メートルですから、足りないということはないと思います。

【久芳教育長】 新しい施設を造っていただきたいという要望がありました。大会をやる場合は左右に観覧する場所が必要なのですが、ほとんど場所が取れない状態ですので、施設としては少し厳しいかと思います。ただ、近期的な場合は十分できると思います。

【中岡委員】 そういうことかもしれないです。

【井上委員長】 それでは議案の第22号につきまして、承認いただけますか。

【各委員】 はい。

#### ④ 議案23号 宗像市小中一貫教育基本方針の策定について（諮問）（資料5）

##### 《承認》

【久芳教育長】 資料5参照。議事録なし（▲18秒）

【教育政策課長】 資料5参照。議事録なし（▲1分44秒）

【井上委員長】 この件について、何かご意見ご質問はございますか。諮問事項が、本市における小中一貫教育をさらに充実・発展させるため、基本方針を策定するものということで、よろしいでしょうか。

【中岡委員】 諮問事項について、充実・発展させるためというのは十分よくわかるのですが、「小中一貫教育の拡大のありかた」は、どういう内容なのか教えていただければと。

【後藤理事】 最初の基本方針については、年々広げていこうという方針でありますので、年を追って全中学校区に拡大していくという研究指定・委嘱です。それが終了したということです。

【中岡委員】 わかりました。

【井上委員長】 それでは議案の第23号につきましては、承認いただけますか。

【各委員】 はい。

## 8 協議

### ① 海洋性スポーツ推進に関する指針について（資料6）

【文化スポーツ推進課長】 資料6参照。議事録なし（▲5分55秒）

【井上委員長】 この件について、これは協議して、仮に意見があった場合は、それを受けて検討することはできるのですか。

【文化スポーツ推進課長】 福津市との協議で、福津市と最終的に合意ということにはなりますが、それは可能です。

【井上委員長】 では、何かご意見ご質問はございますか。

【中岡委員】 予算は、宗像市、福津市50%ということなのですが、管理主体はどうなるのでしょうか。また、実際に出来上がって、運用が始まった際の管理運営は、ヨット協会の関係か、宗像市の指定管理の体育施設の宗像市体育協会か。これはB&G体育館も含めて、宗像市体育協会の管理になっていますので、B&Gとの関係も出てくるのでしょうか。見通しだけ教えていただければ。

【文化スポーツ推進課長】 ここは今後の論議となってきます。土地は宗像市にございますので、原則としては宗像市が担っていくべきではないかと考えております。運用面と管理面とを併せたなかで、中岡委員がおっしゃるように、宗像市体育協会のプロパー職員が、B&G財団の研修を受けて、指導者の資格を取っているという経緯もございますし、県のセーリング連盟、もしくはB&Gの津屋崎海洋クラブなどを巻き込んで、最終的な運営体制を構築していきたいと考えています。まだ今の段階では、具

体的なことはわからないのですが、その時には、ご報告させていただくようにいたします。

【井上委員長】 進行状況は、報告していただければと思います。

【文化・スポーツ推進課長】 財産の問題にもなっていますし、宗像市は説明しやすいのですが、福津市は、よその土地に予算措置ができるのかということで、説明等、いろいろございますので、課題を全部クリアしていかなければなりません。今検討しているのは共有名義による登記で、この事案が全国的に何ヶ所かございますので、調査しているところでございます。

【井上委員長】 他市の事例というのは、参考になりますね。まだいろいろと困難な部分がありませうけれども、また報告していただければと思います。

【川上委員】 推進の目的が、子ども対象になっているのですが、子どもだけに限定すると、稼働率などはどうお考えなのでしょう。

【文化・スポーツ推進課長】 カヌーは大人も大丈夫なのですが、OPヨットというのは、テーブル2枚分くらいの箱型の一番入門のオブティミストのことで、子ども用です。ただし、これは世界大会まであつている本格的なものです。主に子どもたちを念頭に置いた施設であるご理解いただいていると思います。指導者の育成とか、子どもたちの指導を通したなかで、大人も理解をしていくような取り組みとか、仕組みとか、指導者の養成もやっていかないといけないと思っております。

【井上委員長】 今後の展開というのは、35ページに書いてありますけれども、観光面でもかなり使えるのではないかと。近隣のホテルや旅館との連携協力して。

【文化・スポーツ推進課長】 半日とか、2時間とか楽しめますので、新しいスポットになってきたりとか、できるだけ小さく生んで大きく育てていこうという考えを持っております。最初のベースだけは、特に平日の稼働というのは、宗像市の小学生1学年だけを考えても、ほぼ4月から10月くらいまでで、夏休み期間を除けば、平日は埋まってしまいうくらいの稼働があるのではないかと見込みを持っております。

【井上委員長】 ヨット大会の開催とかは、PRを相当積極的にやらないといけないのではないですか。

【文化・スポーツ推進課長】 大会はヨット関係者に情報提供されますので、今でも勝浦浜大会をやっております。今年先週の土日だったのですが、50何艇ぐらい、県外、関西からも来ています。これは全国大会の出場権がこの勝浦浜大会は2枚あり、県外からも来るようです。

【井上委員長】 修学旅行等の誘致も。

【文化・スポーツ推進課長】 はい。可能性として十分、想定としては考えられると思っております。

【平田委員】 OPヨットが何かというのも、今聞いてわかったくらい、海洋スポーツの知識がないので、子どもたちは、実際にスポーツに親しみながら、理解するのはよいのだろうと思いましたが。子どもたちに親しんでもらいつつ、最終的には観光まで広げていくと捉えていいのですか。

【文化・スポーツ推進課長】 はい。

【井上委員長】 よろしいでしょうか。かなり夢のある海洋性スポーツの推進だと思います。

## 9 報告事項

### ① 行政報告(資料7)

【久芳教育長】 5月22日以降、主だった報告を行いたいと思います。5月30日、31日に、北海道で開催の全国都市教育長協議会に行かせていただきました。そのなかで、文部科学省の山下審

議官のお話があり、政府の教育再生会議の審議内容等について説明がございました。いじめの問題とか体罰禁止の問題、道徳教育、それから国と市町村との役割分担ということで、特に、教育委員会制度について見直すようにとの話がありました。ただ、文部科学省の実務担当で言えば例えば小学校の英語の教科化とかいうのがありますけれども、実際問題そういう提言があっても、実現していくのには時間がかかるのではないかというお話が印象に残りました。それから、6月4日に文部科学省に行っていました。これは今、佐賀県武雄市とか、大阪市とか、東京都の荒川区で、児童生徒1人1台の情報端末を整備するという動きがあるわけですが、非常に動きが活発なものですから、政府に整備に関する支援施策があるのかどうか、情報を得に行ったわけでありまして。そのときに、国では今、総務省の「フューチャースクール推進事業」と文部科学省の「学びのイノベーション事業」との2つがあり、全国で小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の全部で20校を指定して、実証研修を25年までやっているのですが、26年以降の計画はないということでもございました。ただ、国の動きなども一緒にお話を聞きまして、与党の自民党のなかでは、知的財産推進計画2013というのがありまして、ここにICTに関する事項等が含まれていて、その案に積極的に盛り込まれておりますし、先週、国の成長戦略でも、1人1台の情報端末の全国展開というのが盛り込まれております。これは、閣議決定されておりますので、おそらく、ICTに関するなんらかの対策が、26年度には講じられるのではないかということを感じました。それから、市議会が6月10日に開会がありまして、12日から一般質問が行われたわけですが、委員会に対する質問といたしますのは、岩木議員、それから伊達議員、北崎議員、福田議員の4名の方からなされております。岩木議員からは、健康宗像21の具体的施策として、義務教育における食育の実施状況のご質問がございました。また、伊達議員からは、学校における防犯カメラの設置状況とその効果についてということで、安全対策のご質問がっております。北崎議員からは、学校規模適正化に向けた方策について、福田議員からは、ICTを活用した教育を進める、こういった立場から電子黒板や学校支援ソフト等の今後の計画や活用状況について、質疑がっております。主だった内容は以上です。

② 後援報告 資料8参照、議事録なし。(▲3秒)

③ 宗像市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について(資料9)

【子ども育成課長】 市では、保護者負担等の軽減を図るために、私立幼稚園就園児保護者に、市民税課税額に応じて、就園奨励費補助金を交付しております。今回、国庫補助基準の改定によりまして、平成25年度の補助単価の引き上げを行うために、補助金交付要綱の一部を改正するものです。以下議事録なし。(▲2分2秒)

【井上委員長】 今のご説明で何か、ご意見ご質問はございますか。改正、新旧対照表のところよくわかると思いますけれども、このように改正されたということです。よろしいでしょうか。

【中岡委員】 54ページですが、現行の場合で、第1子が49,800円、第2子が178,000円ですが、改正後が62,200円と、ここだけ、49,800円から62,200円と、他のところ比べて非常にこの上がり方が大きいのですが。国に準じてということの説明がありました。他のところは、2,000円とか、3,000円とか、それぐらいの変更なので、何か理由が分かればと思いました。

【子ども育成課長】 国から限度額を示されるのですが、ひとつひとつについての詳細については、分からないです

【中岡委員】 わかりました。

④ 宗像市少年少女海外派遣研修使節団員選考結果について

【久保社会教育主事】 資料はありません。口頭にて2点、ご報告いたします。宗像市少年少女海外派遣研修使節団員選考会の結果についてですが、去る5月26日（日曜日）に、市役所202会議室にて団員の選考会を開催いたしました。応募者48名中2名が選考前に辞退し、1名が当日欠席で、当日は45名に対し集団面接を行いました。面接では、どの子も質問に対して一生懸命に受け答えをし、どの子も甲乙つけ難い大変難しい選考となりましたが、選考委員会による厳正なる選考の結果、15名を使節団員として決定しました。内訳は小学6年生が4名、中学1年生が3名、中学2年生が6名、中学3年生が2名。男女比は男子が5名、女子が10名です。ニュージーランドでの本研修が有意義になるように、それに向けて5回の事前研修会、それから1回の事後研修会を行いますが、去る6月9日に第1回の事前研修会を実施しました。15人の団員が初めて顔合わせをし、また、保護者も同伴ということもあって、団員はまだまだ緊張して硬さがありましたが、来たる6月22日、23日に玄海の家で、宿泊研修で団員の絆を深め、団員にふさわしいふるまいができるように、研修を進めていきたいと考えております。2点目ですが、5月の教育委員会で、マウントロスキル校より宗像市訪問中止の報告をしましたが、正式な文書による連絡がありましたので報告します。訪問中止の理由としましては、生徒の日本訪問についての補助金を確保することができなくなり、多くの家庭にとって費用の負担が大きくなりすぎたためとのことでした。報告は以上です。

【井上委員長】 45名中15名ですから、倍率は3倍。男子女子の比率が、男子5人の女子10人。男子がだいぶ増えていきますよね。去年の男子は何人でしょうか。

【子ども育成課長】 4人です。

【井上委員長】 4人ですか。それでは、昨年くらいから少し多くなってきたのですかね。バランスはいかがでしょうか。

【子ども部長】 この年頃は女子のほうが積極的に出てきますので、応募状況もバランスとしては、やはり女子が多いです。でも、今年の応募は男子が結構増えてきたような印象を持ちました。

【井上委員長】 面接だけで決めているのですよね。作文などは、ないのでしょいか。

【子ども部長】 ございませぬ。作文はございませぬが、応募申し込みの段階で、作文に代わるような簡単なコメントは提出していただいて、それも参考にしながら面接に臨んでいます。

【井上委員長】 わかりました。団長、何かありますか。

【平田委員】 今度の宿泊研修が大事だなと。そこで本当に団員の絆をしっかりと結ばないといけませんし、団員一人一人をしっかりと覚えていく、把握していく。もう会った瞬間に名前が言えるくらい、当日22日を迎えましょうと。

【子ども部長】 今年の団長が早速、事前研修の自己紹介を英語でされ、充実した体制で実施していただけると、期待しています。

【平田委員】 よろしくお願ひいたします。

⑤ 第3次宗像市学校教育情報化計画について（資料10）

【教育政策課長】 第2次の宗像市学校情報化計画が今年度で終わります。第2次につきましては、平成23年から25年の3ヵ年計画でございました。それを受けまして、平成26年から28年の第3次情報化計画を策定したものが、資料10になります。基本的には、第2次の情報化計画を踏襲し



まして、内容としまして電子黒板やデジタル教科書、校務系ソフト、ICT支援員等を追記しています。あとについては、事項の訂正をさせていただいています。具体的は、下線を引いているところになります。なお、これにつきましては、宗像市の学校情報化推進委員会で審議をさせていただいております。その他議事録なし。(▲2分38秒)

【井上委員長】 第3次の情報化計画です。3ヵ年計画ということで、前回に比べて随分、充実させる方向に進んでいるのではないかと思いますけれども、実現の可能性は、いかがでしょうか。

【教育部長】 既に、学校現場で電子黒板授業等を使用いただいておりますが、24年度に6校18台を電子黒板入れまして、それから今年度10校33台を予定しております。この計画のなかにもありましたが、来年度6校24台を入れれば、各学校に通って電子黒板が導入できる。それと、校務支援ソフト等も付いてまいりますけれども、まずはこの整備をして、稼動した状況をつくるのがこの計画の考え方です。ただし、学校現場からは、今4台平均しか各学校にございませんので、学校現場としては、各学年に1台は欲しいという希望があります。それに向けての作業が、それ以降の目標になると思います。それから、先程の教育長が文部科学省に訪問した話がありましたけれども、タブレット端末を非常に今意識して、検討するということになっています。早い段階で、試験的な導入を目指していきたいというのが、現状でございます。

【川上委員】 タブレット端末等の検討に絡むことですが、その検討は、何か学校の先生たちで、委員会組織があるのでしょうか。それとも、教育委員会で、一括して検討されているのでしょうか。

【教育部長】 当然、仮の導入となれば、先生方との具体的な話になりますが、現在は、教育委員会のなかで、ICT支援員、指導主事、事務方職員を入れて、検討をしているところです。ただ、社会的には非常に猛スピードで情報が入ってきておりますので、注視しながら進めていくことになります。

【井上委員長】 まだ1台も導入していないのですよね。試験的に導入されるのは26年度くらいになるのでしょうか。

【教育部長】 非常に多額の予算が生じてまいります。Wi-Fi等の環境設定が必要になりますし、先日、武雄市が4,000人の児童全員に配布するということですが、3億から4億という予算でしたので、当市の場合、児童生徒数8,000人となると、非常に多額のお金が必要です。

【井上委員長】 段階的に、数台入れてみるとか、そういうような計画はございますか。

【久芳教育長】 これは、非常に金額がかさみます。市の予算、教育委員会の予算をみても、非常に重たい。ですから、教育委員会だけではなく、市の政策としてどうするのかも含めて決定していく必要があります。ただ、教育委員会としては、一部の学校にタブレットを入れて、国の施策では2020年ですが、早まる予測もあり、来たる1人1台情報端末という波がきたときに、宗像市としてきちんと対応できるよう、人材育成や教育内容の充実などをやっておく必要はあるだろうと思います。パイロット的にやることで、人材育成や課題等の洗い出しができるだろうと思います。とにかく、財源が必要です。タブレット端末は、実は、ランニングコストがかかります。1台1台の金額は普通のパソコンに比べると安いのですが、耐用年数であるとか、あるいは、子どもたちが実際に持ち運びするものですから、バッテリーだとか、技術的なものも含め、更新していかないといけない。一回買えば、暫くいいというようなものではなく、いつもタブレット端末を買っているような状況ですから、ひとつひとつ検証しながら、どのようなかたちで導入するのがよいのか、考える必要があります。

【井上委員長】 武雄市も、パイロット的に1校か2校ぐらいに導入し、そのタブレット端末の成

果が、非常に際立っていたので、他の学校もすべて導入したと、新聞等で拝見しました。やはり最初は、パイロット的になるでしょうが、結果、中止になるということはないのですか。

【久芳教育長】 国の成長戦略のなかに盛り込まれていますので、流れとしては導入していかないと、世界と戦っていくような人材は生まれてこないだろうと思っていますので、重要課題です。

【井上委員長】 早く導入したところから国が支援、金銭的な援助というのはいらないのですか。

【久芳教育長】 そういう話があれば、宗像市としては積極的に取り組んでいきたいと思えます。

【井上委員長】 この情報化計画は、2016年までの3ヵ年計画ということですが。

【中岡委員】 67ページに、四角囲みで基本方針が、4項目あるのですけれども、特に重点的に目指すところは、2番、3番であると捉えてよいのでしょうか。といいますのは、各学校の情報教育担当者会議があると思うのですが、これは、どちらかというと学習指導面ではなく、生徒への機器の操作、いわゆる、技術科的な部分が強いと、私は感じています。2番の教員におけるICT活用の充実というのは、校務支援だけでなく、授業に関わる部分でもあると思っていますし、3番の活用能力というところは、先程のパソコンを活用していく、そういう操作をしっかりと子どもたちに指導していく部分と、授業のなかで、教師が自由に自分たちで扱いながら、授業を進めていくような、そういう力というの、ここにあたると思いますので、計画を進めていく上でも、学校の意見も取り入れるときに、2、3が重点であれば、まず学校の組織を考える必要があると思います。

【西島指導主事】 情報教育担当者会議は、今、機器の技術的要素が強いと言われたのですが、昨年度からですが、電子黒板を使った研究授業を行い、情報教育担当者で集まって協議し、その後、先行事例等を学習する会とか、そういう研修会あたりも用意しております。

【中岡委員】 私の情報が少し古いかもしれませんが、学習面のところももちろん、取り扱っていましたが、授業関係は4回のうちの1回くらいだったという経過が頭に少しありました。現在はそういうふうに進んでいるのであれば、よろしいかと思えます。

【西島指導主事】 昨年度電子黒板を導入していただいてからですが、9月に設定しております。

【久芳教育長】 子どもたちがいかに学びを得るかということは、基本的には、ICTを活用した教育内容というのが主となってくる。教育大学との共同プロジェクトのなかでも、ICTを活用した教育を一つ柱として掲げていますので、大学の知識も得ながら、先生たちの人材育成や、教育内容に関するスキルアップをしてもらいたいと思っています。

【井上委員長】 ICTを活用したカリキュラムづくりなども、行っているのですか。

【西島指導主事】 今年度から情報教育全体計画書を全小・中学校でつくっていただいております。各学校で進めて行く情報教育の目標、重点目標・方策や内容を同じ形式で作成させています。また、小学校1年生から中学校3年生まで学年ごとに、題材・活動・内容を明らかにした年間指導計画等もその中に入っています。

【井上委員長】 せっかく小中一貫教育を進めているわけですから、ICTを小中一貫教育と絡めたかたちでやっていくということも、宗像の特徴になるのではないかと思います。

【教育部長】 まさにそこが、宗像の教育の一番肝のところになるだろうと思います。小中一貫とICTというのが一番の目指すところです。

【平田委員】 65ページのなかほどに、「事前準備等の負担も大きく各教科でのICT活用は消極的である」との記載がありました。宗像市全体で、ICTを活用した教材の共有化などはできないのでしょうか。教材の共有化ができれば、効率的になります。いつも資料、教科書を載せるだけの活用の仕方が目立っているように感じていましたので。

【教育部長】 まさに今、平田委員が言われた、進め方の共有化というのが、一番大事なところになるかと思えます。特に、デジタル教科書等には、先生方の教え方だとか進め方というのも、全部プログラミングできますから、1人誰か長けた人だけができなくて、相互に、みんなが共有化していけるのが、このメリット、大きな柱でもあると。

【川上委員】 導入された授業を拝見すると、デジタル教科書を投影しているものが、一番多いパターンです。長けていらっしゃる先生は、自分で作られた教材を使い、教材を視覚的に見せて、授業のなかで活かされています。方向的には、電子黒板等はそのように視覚的に活用されていくと思うので、教材開発のときに、活用の可能性とか、視覚的な効果を具体的に示して、長けている先生もそうでない先生も活用できなければいけないと思います。そのときにICT支援員さんが、どういうふうに関わられているか。今は操作面の補助等で授業に時々、入られているようにお見受けするのですが、内容に「こんなこともできますよ」という提案とかもできるような支援員さんがいらっしゃれば、もっとスムーズに先生方も取り組んでいけるのではないかと思います。いかがでしょうか。

【教育部長】 この問題は、先日の議会でも質問されたところですが、いかに先生方に普及させていくか、基礎ではなくて、それを応用するというのが一番大事なところなのかなと私は思っております。そういった意味で、ICT支援員を7名、配置しております。ただ単に機械を動かすことだけではなく、学校授業のなかにも一緒に入り込んで、当然機器の操作の仕方と、今、川上委員が言われた教材をどう発展させていくかを一緒に考えていけるような体制、それから指導主事の先生方もいらっしゃいますので、ここに一緒に入って先生方の底上げをしていくことが、ICT支援員の一番大事なところなのかなと思えます。

【西島指導主事】 現在、教育大との連携プロジェクトで、授業の導入やいろいろなシーンを監修して、それを先生方に見てもらおうマニュアルを作ろうとしております。ペーパーではなく、動画で見ていただくとしていきますし、先進校や武雄市を招聘して、その先進校の良い事例を紹介していただくとも考えております。それから、学校には伝えているのですが、ICT支援員は、補助だけではなく、依頼があれば、可能な限り教材も作りますので、うまく広げていきたいと考えています。

【井上委員長】 支援員さんは、単なる機器操作だけではなく、教材づくりにまで協力していただけるということですね。

【西島指導主事】 はい。

【平田委員】 コストについてですが、LANケーブルと無線LANとは違いますか？ 個人情報とか大事な部分は、LANケーブルで、そうでない部分は無線LANで、そのような教材などは、両方で使えないのかなあと思ったのですが、コストがかからないように。

【教育部長】 もう、LANはほとんど、学校は整備が終わりつつあるもので、今回、導入はしますけれども、LANは先に入っている状況があります。無線はタブレットを使ってまいりますので、学校のなかでセキュリティをどう守るかという話になってくるかと思えます。

【平田委員】 わかりました。

【中岡委員】 小中一貫教育の部分と、ICTの整備を、しっかりと取り組んでいかないといけない内容だと思っています。学習支援ソフトについてのところですが、小学校で、どうかたちでICTを活用した授業等が進んでいるのかということ、中学校との一貫の中身として、十分に連携をしながら、中学校でも活用ができていく。小学校で積み上げたことを一足飛びに進めていくとなると、小学校は小学校で、中学校は中学校で必要なことでやりましょうとなる可能性もあると思

いましたので、一貫との関わりというのをしっかりと踏まえながら、進めていくのが一番いいのではなかなと思えました。

⑥ 宗像市教育委員会研究指定に伴う平成26年度以降の研究発表について（資料11：当日差替）

【西島指導主事】 資料11当日差替分参照。議事録無し。（▲1分53秒）

【井上委員長】 このような段階的なかたちで、この提案をされています。26年度、来年になりますけれども、中学校区ごとの授業交流会の場には、教育委員は参観に行くことはできるのですか。これは、校区ごとですが、同じ日ですか。

【羽田野指導主事】 基本的には、火曜日に行われることが多いのですが、校区ごとにバラバラになっております。

【井上委員長】 では開催日の情報をいただくと、参観できますのでよろしくをお願いします。

⑦ 教師の経営力・指導力・組織力の向上を図る宗像市教育委員会の方策について（資料12）

【後藤理事】 資料12参照。議事録なし。（▲6分23秒）

⑧ 市制10周年記念事業「市民音楽祭」「大島ハーフマラソン大会」について（資料13）

【文化スポーツ推進課】 資料13参照。「大島ハーフマラソン」でございますが、去年復活し、10キロコースで実施したのですが、今年は、10周年記念ということでTVQと組みまして、ハーフマラソンに拡大しています。10キロ、ハーフ併せまして、1,500人の選手を募集する計画をいたしております。ハーフは、大体島内を2週回る非常にハード・ハーフマラソンでございます。10キロも非常にタフなので、ハーフは2倍のタフなコースとなります。15日から募集をかけ、土、日、月で、200人を超える応募があり、上々の滑り出しです。大体2,000人くらいは、この日に本土側から人が入るようになりますが、大島は多分、これだけの人が入ったことはないのではないかと考えております。船は、フェリー「おおしま」と「しおかぜ」がフル稼働で、なんとか、2,000人ちょっとくらい運べるということです。その他議事録なし。（▲4分41秒）

⑨ 6月1日実施土曜日授業について（資料当日配布）

【後藤理事】 当日配布資料参照。本格実施の年になります。第1回目の土曜日授業は、このような内容でございました。小中学校合計で、1,715人と非常に多い参加となりました。本来の目的は、地域に開かれた学校づくりということで、学校が工夫して、地域をどう取り込むかというところが、大きな柱だと思っております。そういった意味では、まだ来校人数、実施内容に差があるように思います。これを意識啓発するために、昨日の校長研修会では、この一覧表を渡しています。来校者少なかった校長は、「次は絶対頑張るぞ。」と思うはずですが。保護者の意見も、非常に肯定的な意見が多かったように思います。ちなみに、2枚目でございますが、来校者が多かった学校のもので、本来の趣旨を理解した取り組み、例えば、土曜参観の御案内を準備し、保護者が行ってみようかなと思いうようにし、校長座談会を行った自由ヶ丘南、それから、日の里西小学校では、「ひのたんタイム」「丸つけたい（隊）」とか、易しい言葉で表した案内、どちらも大変意義があると思っております。これを充実させていきたいと考えています。ただ、2回目は市を挙げての防災訓練ということでございますので、具体的には次の3回でということでございます。

#### ⑩ 6月学校の日について

【川上委員】 私は、城山中学校と吉武小学校と赤間西小学校の城山中校区を3校回らせていただきました。まず城山中学校では、非常に落ち着いた態度で、子どもたちが授業を受けていました。試験3日前ということで、先生方も演習を中心の授業を展開されていたので、子どもたちも問題を解きながら、分からない部分を質問するという形態での授業が行われていました。校長先生と少しお話をし、今年度の取り組みとしては、いじめに対して予防的な措置をとれないか、何か方策を練っていききたいという言葉が印象的でした。吉武小学校では、保護者が主催する「母べえの会」というのがあるのですが、それが、今回1回目ということで、校長先生から小中一貫のお話を聞きたいと保護者の方が願われたので、校長先生が資料を準備して校長室で非常にわかりやすくお話をされていました。それで、私も参加させていただいて、城山中校区における小中一貫の話を伺いました。ただ出席は、お母さんが3名しか来られてなかったのが、少し残念でした。参加されていたPTAの役員さんなのですが、「これは少し少なすぎるので、今後のことをもっと考えなくてはいけない。」というお話を聞きました。せっかく良いお話だったので、もったいないなと思いました。そのなかで校長先生が、昔の吉武小学校の校歌と、今現在歌われている小学校の校歌の違いと、前の分をいかに今の分に取り入れられているかというお話をされていて、地域の教材開発に校歌を役立てていらっしゃるなと思いました。次に赤間西小学校ですが、先生方は掲示物とか、きちんと配慮して貼っていらっしゃいました。一番驚いたのは、6年生の授業の家庭科でした。エプロン作成だったのですが、普通、作成の場面になると、子どもたちがお友達同士でお話をし、楽しげにする光景がよく見られるのですが、そのクラスは、先生の説明が終わったら、自分の作業に一人ひとりが没頭していて、非常にエプロン作成に前向きに取り組んでいることに驚き、先生の日頃の指示や信頼関係が出来上がっているクラスなのだなと思いました。校長先生の今課題と思われることは、若い先生をいかに育成するかということで、とても今頑張ってもらいたいということでした。

【平田委員】 河東小学校、河東中学校、東郷小学校と行かせていただきました。河東小学校は、車も多く、門を入るなり、子どもの元気な声が聞こえて響いておりました。校長先生が保護者と会う度に話している様子を見ながら、とても保護者と校長先生との人間関係が良いのだなということを感じました。どこの教室も、学習規律ができていて、集中した授業をされていました。中学年が、国語の辞書を使って、調べ学習をしているのですけれども、付箋がいっぱいで、調べたところに線を引いていて、子どもたちの意欲というか、付箋から喜びが伝わってまいりました。当日連絡がなくて、欠席していらっしゃる子どもさんのところに、教頭先生が、9時過ぎて早速出向いて行って、主幹の先生は、おばあちゃんのところとか、いろいろなところに連絡を取り合いながら、その状況把握に努めていらっしゃる姿を見たときに、学校の見えないところの危機管理等がうかがわれましたし、安心もいたしました。河東中学校では、生徒は皆、教室には入っているのですけれども、気になる生徒が結構いまして、校長先生は、「生徒は声を掛け、しっかり言えばわかる子どもだから。」とおっしゃられましたけれども、少し気になりました。あるクラスの理科の授業でしたが、考査前で、教科書にラインを引いて、ポイントを押さえていたのですけれども、板書が前時の数学のまま書かれていて、教師がはじめをつけないといけない、見逃しがちだけれども大事だなと私は感じました。それから、東郷小学校、ここも駐車場がたくさんでした。印象的だったのが、各クラスの絵で、とても素晴らしいなど、どのクラスも思いました。東郷小学校は、各クラス、支援を要するような子どもさんが多いかなということも少し気にはなりました。『学校の日』のプリントの裏にしっかりと、学校の行事の

写真とコメントが入っていていいなど、そのようにも感じました。

【中岡委員】 玄海東小学校に行きました。特に気付いたのが、先生方が授業をもちろんしていたのですが、何かこう、自信に溢れているなど、そういう姿を感じました。子どもたちは、本当に元気でハツラツとして、積極的に授業を受けているということです。その後、校長先生と少しお話をさせていただいたのですが、そのなかで、中学校で、人間関係の面で少しトラブルがあって、そのなかに玄海東小学校の生徒も一緒になって入っていたと。小学校の段階では、人間関係作りについては、学級活動のなかで取り組んで力がついていると感じていたけれども、トラブルが起こっているということを小中一貫のなかで、いろいろと校長同士で話をされていますので、話が耳に入ってきたと。ことで、9年後にどういう子どもたちが育った姿を見せるかということ、しっかりと考えながら取り組んでいかなければいけないと。本物の力をつけたいと力強く言われておりました。これは、校長先生の現状に甘んずることなく、更に子どもたちを育てるためにどうすればいいのかという考え、そしてその意識、取り組みかたというのが、先生方につながっていているのかなと。それを受けて、子どもたちが変わっている、自信を持って、先生たちが指導にあたっているのかなと感じたところです。校舎は、大分古くなっておりますけれども、非常に環境も十分に配慮されて、古いのですけれども、雰囲気が非常に落ち着いているというふうなですね、そういう環境作りに取り組まれているなど思いました。それから次に、玄海中学校と玄海小学校に行きましたけれども、玄海中学校ですが、授業は、落ち着いた状況で進められているなど思いました。教頭先生が、グラウンドで体育の授業に汗を流していると。非常にイキイキとして授業をされているなどというのが、ひとつ大きな印象でありました。それから、小学校ですけれども、6年生の社会、5年生の算数、4年生の学級活動で、電子黒板やテレビを使った授業が行われていて、子どもたちの様子が、非常に食いつくように、意欲をもって授業に臨んでいるなど感じたことと、先生方が日常的に、この電子黒板等を使用しているところも見ることができました。1点ですけれども、図書室の使用について、先生から少し話を聞いたのですが、中学生が入ると、小学生がなかなか入りづらいというようなことで、これは、少し検討、配慮する必要があるのかなと。例えば曜日で、交替で利用するとかですね。あるいは、小学校では、分室的な場所あたりなんかも、少し考えることもいるのかなと思ったりもしたところです。それで、実際的には、立派なものがありますから、そこで子どもたちが一緒になって読書ができると、あるいは調べたりすることができるというのが一番いいのかなと思いますけれども、そういう状況があるということでもございました。次に東郷小学校に行きましたけれども、以前もそうでしたけれども、本当に1年生から、授業規律がしっかりと指導されているなどということを今回も感じました。それから、先生方が授業に対して非常に熱い思いを持って取り組んでいるなどという印象を受けましたが、それが子どもたちにもしっかりと伝わっているという様子を見ることができました。保護者の参加が相変わらず、東郷小学校は非常に多いということで、学校への期待というのも大きいのかなと思ったところです。

【井上委員長】 私は、河東中校区、河東西小学校、河東小学校、それから、河東中学校の3校を訪問させていただきました。河東西小学校では、道徳の公開授業日でもありまして、保護者も結構参観されておりました。どの学年も子どもたちの活発な発言があって、非常に良い授業であったなど思いました。高田校長ともお話をしまして、特に、小中の交流活動等が今まで非常に弱かったので、これから努力していきたいという力強いお話がございました。それから、河東小学校では、久家校長より、今年度は小中一貫教育の事務局校ということなので、河東中校区の小中一貫教育を、より推進させるために、支援教員が十分能力を発揮できるようにしたいという力強いお言葉を伺いました。校長先生

の並々ならぬ決意を感じました。それから最後に、河東中学校なのですが、私が感じたのは、特に2年生が元気過ぎるというか、私語が非常に多いという気がして、少し心配な点がございました。1年生の理科の授業、先程も川上委員からも少しありましたけれども、最初、期末考査があるとは知らないで、この1年生の理科の先生が、ずっと話をしているだけで、こんな授業でいいのかなと思っただけなのですが、あとで校長先生にお話を聞いたら、ポイントを先生が説明したり、赤線を引かせたりしているということをお聞きしまして、納得いたしました。

⑪ 小中一貫教育について（資料15）

【西島指導主事】 資料15参照。議事録なし（▲1分9秒）

⑫ 福岡教育大学との連携事業について（資料当日配布）

【中教協コーディネーター】 当日配布資料参照。このプロジェクトは、全ての小中学校に啓発広報していく必要がありましたので、このレジメを、昨日の小中学校の校長会で紹介をしています。黄色の枠内、※印4つを強調して説明をしています。このプロジェクトは、それぞれの中学校区の小中一貫教育の推進をより深めるためのプロジェクトであるということと、今年度は、理科教育とICT教育と特別支援教育に特化して行いますが、徐々にいろいろな教科で実施を目指していきたいと考えています。授業づくりに新風を吹き込むことで、子どもたちの最終的な学力の向上につなげることを考えています。また、学校現場が大学とつながることで、質の高い授業実践ができるということを報告させていただきました。本日は、ICT部会で、玄海中学校が電子黒板を使った授業に取り組みます。来週、6月25日には、ICT部会で河東西小学校で、これは授業を全体に公開していただけることになりました。電子黒板や実物投影機等使いながら行われます。実施後同様に報告をしていきたいと考えております。その他議事録なし。（▲5分5秒）

【井上委員長】 何か着々と、この事業が進んでいる様子が、本当によく分かりました。

【中教協コーディネーター】 西野先生は、この事業のことを大変喜ばれたのですけれども、それ以外に生物分野が、小中学校で授業がしにくく、原因のひとつが、生物分野の教材というのは、時間が掛かったり、空間的にも難しいということで、その学校現場が抱えている悩みをアンケート調査して欲しいということで、中学校には理科の教師、小学校には全員の先生のアンケートの依頼でお見えになりました。校長会で説明をしていただいて、そのデータを取りながら現場にお返しして、新たな事業も考えていきたいということでした。西野先生は、普通の公立の小学校の学校現場に関わられたことが初めてのようで、大変感動されていました。

⑬ 宗像市民図書館雑誌スポンサー報告

【図書課長】 資料16参照。議事録なし。（▲40秒）

⑭ その他

・宗像市民図書館深田分館の臨時休館について

【図書課長】 89ページ参照。議事録なし。（▲26秒）

【郷土文化交流課長】 皇太子殿下が夕刻に到着されて、中の施設、特に展示関係を案内と、体験学習を視察されるということで、体験学習については、勾玉づくり、それから土笛づくりの2つの体験をお見せします。ちなみに、南郷小学校の6年生38名が、体験に加わっております。7月4日が全館休

館ですけれども、その前日の7月3日午後6時から、駐車場は全て閉鎖になりますので、併せてご報告します。

・中学生妊婦体験教室について（資料当日配布）

【子ども家庭課長】 当日配布資料参照。去年一部の中学校で開催した妊婦体験教室を市内の全中学校で開催いたしております。6月4日と6日に玄海中学校、中央中学校で行っておりますので、その一部を報告させていただきます。議事録なし。（▲3分38秒）

・イングリッシュ・サマーキャンプについて

【子ども育成課長】 資料はございません。昨年度に引き続き、小学校5、6年生を対象に、オールイングリッシュでの活動を体験するイングリッシュ・サマーキャンプを、8月19日から21日の2泊3日、グローバルアリーナで実施いたします。本事業の企画運営は、プロポーザルによりまして、市のALTを受託しております、株式会社アウルズに委託することに決定しております。昨年度は募集30人に対し、91人の応募があったため、本年度は10人増やして、40人で募集いたします。7月1日から募集を開始し、応募者多数の場合は、抽選で決定いたします。今年度のニュージーランド研修の応募者の中には、昨年度、このイングリッシュ・サマーキャンプに参加して、英語での体験が楽しかったので応募したという子どもも数人おりました。今回もこの体験が、英語に興味を持つきっかけになればと期待しております。

【子ども部長】 文部科学省から、宗像市の社会教育分野の動きについてお尋ねしたいという電話がありました。国が社会教育分野の制度、あるいは社会教育主事の運用の面で、時代になかなか制度が合わないような状況になってきたということで、宗像市のここ2、30年の動きが、丁度その議論の過程とマッチして、実態としてあったので、話を聞きたいということで、中央教育審議会の分科会に呼ばれて行ってまいりました。市民の学習活動を例にとると、元々は生きがいつくりとして、生涯学習からスタートしてきたのですけれども、それが充実してくると地域づくりとかまちづくりに発展しています。宗像市の場合は、コミュニティ施策なり、市民協働ということに発展し、新たに行政の担い手にまでなっていることが、大きな注目の的になっています。それから宗像市は、市民学習ネットワークが大きなきっかけになったと思うのですが、ルックルック講座や、大学連携、そういうソフト面の体制が充実し、大変中身が濃くなってきたこと。それから、行政計画をとっても、生涯学習推進プランという計画が、今回は、市民活動推進プランと大きく行政自体も変えてきたというところで。そういうソフト面の歩みと併せて、ハード面では、宗像ユリックスができ、メイトム宗像ができ、コミュニティセンターを地域にしっかり整備し、ソフトとハードのうまくリンクしてきた流れがございました。私たち行政の組織機構においても、従来、教育委員会が所管していたところが、平成17年に市民協働部ができた際に、生涯学習の一部が市長部局に移管し、平成23年に子ども関係の分野もまた移管したこと。その辺も文部科学省としては、すごく注目されていました。それと今回、社会教育主事を再度、配置したことの実情をヒアリングしたいということで、質問攻めにあいまして、委員の皆さんは、制度運用に対して、なかなか先がみえないという悩みを持たれているような印象を持ちました。全国にいろいろな事例があるのですが、丁度議論の流れが実際に宗像市で起こっており、実態がよく聞けたということで喜ばれました。



【郷土文化交流課長】 2点ご報告をさせていただきます。資料はございません。1点が先日行いました、田熊石畑遺跡のプレオープンのイベントです。いせきんぐ宗像プレオープンということで、6月8日は、890名の方が参加されました。1週間前の6月1日に、東郷小学校の全校生徒500名が、芝のポット植えイベントに参加してくれましたので、総勢1,400人の市民が参加され、2,000㎡の土地に植えることができます。それと、もう1点が、市制10周年記念事業のひとつとして、7月17日から21日の5日間、海の道むなかた館の前に、市内にあります山笠の集合展示を行うようにしております。そして、メインは7月20日、土曜日になりますが、13時から記念式典、そして実際に田熊山笠を宗像大社の駐車場内ですけれども、山をかくようにしております。また、その後17時くらいから、夜の星空コンサートということで、津軽三味線演奏、宗像・日田子ども合唱、こういったものを考えておりますので、また教育委員さんには、是非、式典にご参加いただくように、ご案内をさせていただきたいと思えます。

【井上委員長】 それでは、次回は、7月23日9時30分から301会議室にて開催します。本日は、長時間ありがとうございました。

平成25年 7月23日

井上 裕之

中岡 政剛

